

彦根市はーとふるメッセーヅ
入賞作品集
2021

編集・発行 2022年2月

彦根市企画振興部人権政策課

TEL 0749-30-6115

FAX 0749-24-8577

<https://www.city.hikone.lg.jp/>

はじめに

毎年七月から十二月まで募集しています「彦根市はーとふるメッセージ」について、例年多数のご応募をいただいております。令和三年度も、作文部門、標語部門、ポスター・絵手紙部門の三部門合わせて八七四点もの作品をご応募いただきました。どの作品も、様々な人権問題を解決していかうとする決意や人権尊重に対する思いに溢れた素晴らしいものばかりでした。

本作品集は、ご応募いただいた作品の中から選ばれた五四点の入賞作品を掲載しています。一人ひとりが身近にある人権問題に気づき、ひいては人権が尊重されるまらづくりについて考えるきっかけとなればという願いを込めて作成しました。学校や地域など様々な場面で人権学習・人権啓発の資料としてご利用いただければ幸いです。

最後に、今回ご応募いただきました皆様、ご協力を賜りました関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

ここに収録した作品の入賞作品は、彦根市ホームページで公開しています。
右のQRコードを読み取っていただくと、作品を掲載したページに繋がります。
また、入賞作品を使って啓発パネルを作成しました。各種研修や会合、催し物などの際には是非ご利用ください。詳細は37ページをご覧ください。





目次

作文部門		該当ページ
小学生の部	特選作品（2点）	1～2
	入選作品（4点）	3～6
中学生の部	特選作品（3点）	7～9
	入選作品（5点）	10～14
一般の部	特選作品（1点）	15
	入選作品（3点）	16～18
作文部門の総評		19～20
標語部門		
小学生の部	特選作品（2点）	21
	入選作品（4点）	21
中学生の部	特選作品（2点）	22
	入選作品（4点）	22
一般の部	特選作品（2点）	23
	入選作品（4点）	23
標語部門の総評		24
ポスター・絵手紙部門		
幼保園児・小学生の部	特選作品（3点）	25～26
	入選作品（7点）	26～29
中学生の部	特選作品（2点）	30
	入選作品（4点）	31～32
一般の部	特選作品（1点）	33
	入選作品（1点）	33
ポスター・絵手紙部門の総評		34
応募団体一覧		35
募集要項		36
人権啓発パネルの貸出について		37



A decorative border with a repeating floral and leaf pattern, framing the central text.

作文部門
入賞作品

小学生の部

《特選》

人権と正義

城東小学校 5年

林 はやし 亜美 あみ さん

私は道德の勉強をして、ぜったいに、人をいじめたり暴言を言ったりすることはいけないと思いました。なぜなら、後でぜったいこうかいするし、言った暴言はとりけすことができないからです。

この私が勉強した道德のお話は、理科のテストが原因でみんなから仲間はずれにされるお話です。クラスのリーダーのミッコは頭がよくクラスでテストの点数も一番ですが、たまたま親友にテストの点数をぬかされ、それがくやくしくてみんなに「親友の井上さんとは仲良くしちゃダメ。」と言います。その中

いで井上さんはみんなから仲間はずれにされます。もし、私だったら悲しくて泣いてしまうかもしれません。しかし、その数日後、井上さんの筆箱の中にある手紙が入っていました。「わたしは杉田さんの言うとおりにしているけれど、井上さんをほんとうにきらいなわけではないのよ。」という手紙です。このとき井上さんはむねの中いばつと明かりがともったような気持ちになりました。私だつてきつとそうです。一人だけではなくったと思えるからです。この話のようにいじめをされると、とても悲しい気持ちになります。だから、ぜったいにいじめをしてはいけないと思いました。

の文章にやなせさんの正義の考えが書いてあったことです。「本当の正義とはおなかです。」「本当の正義とはおなかです。」「本当の正義とはおなかを分けてあげることなんだ。」これを見て、人に食べ物を分けることは、命を支え、助けることだと思いました。けれど、いじめは人をきずつけ、悲しませるだけだし、また暴言を言うことは見えないきょうきで人の心をきずつけています。つまり、人を大切に思わず、その人の一人一つの命をきずつけ自殺にまでおいこんでしまうことだと思えました。「世界に一つの命を守る。」これが私の正義です。だから、「自分がきずつくかもしれない」そんな考えはおいほらい、みんなが幸せに笑顔でくらせる社会にするためにたくさんの人を助け、私なりの正義で人権を守っていききたいです。

《選評》

「いじめ」や「差別」は、された人も、した人も、決して幸せな気持ちにしないものです。いじめなどを受けたとしても、された人の気持ちを理解し、励ましてくれる人が一人でもあれば、その人はまた元気を出せるでしょう。やなせたかしさんの伝記を学習して、自分の正義は「世界に一つの命を守る」と言い切る、その力強さに芯の強さが感じられるいい作文です。

《特選》

おたがいが協力して、楽しく
過ごせるために

城西小学校 6年

黒枝 くろえだ 紗矢子 さやこ さん

差別の歴史は室町時代からありました。また、江戸時代では、百姓や町人とは別れ身分上で差別されてきた人たちに對し、渋や藍で染めた無地の木綿の着物以外は着てはいけないや雨の時でもかさをさしてはいけないなど、差別が強まっていました。

しかし、差別は昔のことだけでなく、現代でもたくさん起きています。最近ニュースなどで話題になっているのは人種差別です。犯罪を起こした黒人の人が、警察官の白人の人に銃でうたれて、なくなってしまうというニュースを先日見ました。普通こ

のようなことはあつてはならないと思います。また昔には、ユダヤ人を厳しく差別し、虐殺していたと学校の授業や歴史のマンガで知りました。

私はどうして、このような人種差別が起きるのか自分なりに考えてみました。私が思うに、理由は三つあると思います。一つ目は、自分や仲間の考えだけが正しいと思つているからだと思います。考え方は、国や住んでいる場所、人によって違います。自分の意見が一番と思いきると、相手の考え方が許せなくなり、差別してしまうようになります。二つ目は、見た目が違うからです。考え方と同じように、肌の色・目の色・髪の色は人それぞれです。しかし、自分と肌・目・髪の色が違うからといって仲間はずれにするのはおかしいと思います。肌・目・

髪の色は個性であり、自分の大切な宝物です。それを批判されるのはとても傷つき、簡単に傷が治ることは無いと考えます。三つ目は生活習慣です。ある本には、世界の不思議な習慣についてたくさんかかれていました。牛のふんで手を洗う国などがありました。日本では考えられないことですよ。反対に衛生環境の整っていない国では、日本のように生で卵を食べることは考えられないことだそうです。このように国が変われば習慣も変わります。しかし、その国によって常識が違うことはあたりまえだと考えます。

私は、三つの自分の考えをふまえて、国の現状を見つめ、大人になって色々な人と関わり、色々な人や国々の架け橋になりたいです。

《選評》

一昨年発生した黒人差別を契機に抗議活動「ブラック・ライブズ・マター」は世界に大きな衝撃を与えました。人種差別をはじめ様々な差別、いじめは、私たちの身の回りでも見られる問題であり、問題発生の理由について、この作文で3つの点を掲げています。これらの指摘は、いずれも的確でわかりやすく、この作文を読む人に、あなたはどうですかと問いかけているように感じさせるいい作文です。

《入選》

大切な友だち

稲枝東小学校 3年

白石 彩 さん

わたしは、友だちといっしょにいて、うれしいなと感じる時がたくさんあります。

一つ目は、校外学習でのことです。おべん当を食べる時に、友だちが、

「いっしょに食べよう。」
と言ってくれました。その時わたしは、うれしい気持ちになりました。なぜかという、一人で食べてもあまりおいしくないと思うからです。今は、大きな声で、話しながら食べるのはむずかしいけれど、友だちとわになって食べるだけでも楽しいのだなと思います。やっぱり、友だちと食べるおべん当は、おいしくて、友だちっていいなと

思いました。

二つ目は、かかり活動の時のことです。かかり活動で、何をしようか考える時に、友だちは意見をたくさん出してくれます。いろいろな意見が出るので、わたしも時どきちがう意見も言ったりします。そんな時に、「だめだよ。」と言ったりせずに、話をよく聞いてくれます。そんな時に、自分とはちがう意見でもしっかり話を聞けてすごいなと思います。わたしなら、友だちの話をしっかり聞けるかなと思いました。

三つ目は、図工の時間のことです。わたしは、絵をかくのがとても大好きです。わたしのかいた絵をほめてくれた友だちがいました。わたしのよいところを見つけてくれて、うれしい気持ちになりました。わたしも友だちのよいところを見つけて、つたえていきたいと思いました。

四つ目は、国語の時間のことです。文章がうまくかけず、こまっていた時に、友だちが教えてくれました。おかげで、わかるようになってすっきりしました。こまっていた友だちに声をかけることができるのっていいなと思いました。

このように、わたしは学校生活の中で、友だちがいてくれてうれしいなと思うことがよくあります。わたしは自分から友だちに声をかけたり、友だちに教えたりするのが、が手なのでなかなか話しかけることができません。でも、自分から声をかけることができるように少しずつがんばっていきたいです。そして、いろんな友だちとなかよくなれるように、友だちのいいところを見つけてつたえていきたいです。

《入選》

本当の友達とは

でも友達とはそれだけではない

自分もこうかいしない

高宮小学校 4年

本当の友達とは

教えてあげてよかった

北川^{きたがわ}理乃彩^{りのあ}さん

友達がまちがったことをしていたら

きっと友達だから言えたんだと思う

友達って何？

勇気を出して

本当にやさしい友達がいてよかった

いっしょに遊んで楽しい人

やさしく教えること

わたしもそういう人になりたいな

勉強を教え合える人

そうすれば

困っている人を助ける人

相手もきずつかず

《入選》

やさしい言葉

平田小学校 4年

平石 優樹 さん
ひらいし ゆうき

ぼくが、やさしい言葉について書こうと思っただきっかけは、学校のじゆぎようで習ったからです。そのときに、こっせつした時のことを思い出しました。

去年の冬、習い事の帰りに、自転車でこけて、いたくうごけなくてうづくまっていた時に、近くにいた大人のの人に、「どうしたの？」と声をかけてもらいました。ぼくは、いたく返事ができなかつたけど、心の中は安心できました。そして家まで送ってもらいました。そのときは、外も暗く母も父もいなくて心細かったので、どうしたらいいのか分からなかつたけれど、

ど、助けてもらえて帰ることができたのでホッとして、そのときに初めてなみだが出てきました。

次の日、学校に行きギブスのでを見た友達か、声をかけてくれました。それは、「大丈夫？かばん持ったるか？」など、ぼくの体を心配してくれているのがわかるような、やさしい言葉ばかりでした。そして、うでが治るまでの二か月くらいの間ずっと、学校の行き帰りに荷物を持ってもらいました。自分の荷物もあるのに、ぼくの荷物を持って歩くのは、すごくしんどかつたと思います。それなのに、毎日いやな顔もせず持つてくれて、すごく助かったのを覚えています。

こういう言葉をかけられて、学校などの友達は、友達どうして助け合うことが大切なことだとあらためて思いました。

やさしい言葉は、かけた方もかけられた方も、おたがいが明るくなるのではないのでしょうか。

最後に、ぼくのようにこまっついて、助けを必要としている人を見かけたら、ぼくを助けてくれた人のように、「どうしたの？」と声をかけたいです。他にも、「おこまりですか？〇〇しましょうか？」などとかけられたら良いなと思います。でもぼくは、声をかけるゆうきがなくて、そのゆうきを持ちたいです。

これから、このことをずっとわすれず、ふだんからやさしい言葉を使える人になりたいなと思っています。そのためには、やさしい言葉を使いたくさん見つけて、それを使ってみたいです。

《入選》

七色に光る虹のように

城西小学校 6年

植田 葵衣 さん
うえだ あおい

「人権」

これは、私たちが生まれた瞬間からもっている、人間らしく生きるための権利。私はこのことを六年生の社会科で学習しました。

そこで、私はその「人権」を尊重しているのか改めて考えてみました。人間が人間らしく、毎日を楽しく過しているか。でも、たくさんの人がそうではないと思います。

理由の一つ目は、「人種差別」です。黒人、白人。これだけでたくさんの方が差別されています。私は、「白人が黒人に鉄砲をうち、死亡させた。」このニュースを見まし

た。このニュースを聞いたとき、「人権」を思い出しました。これは人権を尊重しているのかな、と。「黒人」、「白人」ではなく、一人の「仲間」として、差別をなくしてほしいです。

理由の二つ目は、「男女差別」です。「男なら保育士はなし」とか、「女は家事」とか、「男だから、女だから」と決めつけがあります。それは、昔と同じ考え方です。私は、その考えに反対します。誰でも自由に生きてほしいです。でも今は、LGBTQなどの考えが出ています。現在は、その意見はあまり親しまれていませんが、「男女の平等」、そして「個人の尊重」というこの二つを色んな人に知ってほしいです。

理由の三つ目は、「障害者差別」です。私は道徳で考えたことがあります。友達とキヤッチボールをする時、その

友達は車いすに座っているため、男の子はボールをゆるく投げているというものです。これはなげている男の子にとっては良いことだと思っているのかもしれない。でも、その友達は本気でボールをなげたいのではないかと考えられます。また、「障害者だから」席をゆずろうとか、「障害者だから」優しくしようとする人もいます。これはたくさんの方がよるこぶでしょう。でも、一部の人は「別にいいのに」と思っているのかもしれない。私はこれから、たくさんの人にその意識を高めてほしいです。

理由の四つ目は「いじめ」。これは、学校にも関係していません。誰かがいじめられていても、私は見過ごしてしまいかもしれません。でも、何か悩みをもっている友達がいたら、真剣に話を聞きたいです。そして、一緒に解決策を

探りたいです。

この四つの理由の上で、改めて「人権」について考えてみました。「全てを解決して、誰もが人間らしく生きる世の中」というのは遠い話かもしれませんが。でも、今の私たちの世代から、差別をなくしていき、明るい未来が訪れることを願っています。

そして、明るい未来だけではなく、まるで「虹」のように一人一人が自分の色、個性を尊重し、輝きを放ってほしいと思います。私たちが私たちにちらしく、人間が人間らしく生きていくために。

中学生の部

《特選》

あなたならどう考える

鳥居本中学校 3年

中村 なかにし 榎乃 かの さん

人権は難しい。嫌だと感じるのは個人差がある。この差別はしようがないと思うこともある。けど、守らないといけない。誰かが傷ついてしまうから。相手は見知らぬ相手かもしれない。だから大丈夫だと思うかもしれない。けど、相手は大丈夫じゃない。心の傷は治らない。だから、みんな守ろうとする。誰かを傷つけないように。

私は日常生活の中で感じたことがある。私は人権について分からなくなった。最近の出来事、私は制服をズボンに変えた。男の子になりたいというわけではなく。私は小さいころからおままごとやファッションなど興味がない。鬼ごっこやサッ

カーのほうが好きだった。周りからは男の子みたいと言われた。男の子になりたいわけじゃないのに。かといって女の子がいいというわけでもない。けど男の子と言われるのは自分を否定されたようで嫌だった。昔は自分だけが傷ついていると思っていた。しかし、最近では自分の性別について悩み、苦しんでいる人たちを傷つけているのではないかと考えるようになった。女の子になりたい男の子からは「もったいない。」男の子になりたい女の子からは「馬鹿にしてるの。」と。考えれば考えるほど分からなくなる。私はどうしたらいいのか。どうすべきなのか。みなさんがもし私の立場だったらどうしますか。考えないようにしますか。それとも女の子らしく生きようと思えますか。というか女の子らしいとは何ですか。中性でいいじゃないと思うかもしれない。自分には関係ないと私の問いかけを無視しますか。私だっ

て他人だったらそうすると思う。だけど、こうやって悩んでいる人は私だけではない。多くの人が悩む問題だと思う。だからいろんな人に考えてほしい。私のような思いを持っている人に対し、男の子というほうがいいのか。女の子というほうがいいのか。どちらがその人にとって幸せといえるのか。その人にとっての幸せとは誰もわからない。だからどちらが幸せなのか言う必要がある。だが私には出来ない。それは、私も私自身の幸せが分からないから。もし分かったとしても私には勇気がない。だから周りには相談しない。

《選評》
筆者の小さい頃からの体験や、最近の学校の制服が男はズボン、女はスカートという固定観念を打ち破りズボンに変えたという体験を記述しています。そこから人権の難しさや守ることの大切さを学んでいる様子が伝わってきます。
特に「あなたは人権を守るために何をしますか。」と問いかける結びの一文は強烈なインパクトに加え、はっきりさせられる作文です。

《特選》

職業差別

鳥居本中学校 3年

八木 やぎ 拓己 たくみ さん

僕が今からの人生で、一番受けるかもしれない差別が職業差別です。

僕はコロナ禍で「町中に出ないでほしい」という差別を医療従事者の方たちが受けているというニュースを見ました。僕はこのニュースを見て本当に不快でした。「何故、今頑張っている人が不十分な生活をしなければいけないのか。」僕には意味がわかりませんでした。しかし、このニュースの評価欄を見ると、僕と同じくこの意見を不快に感じた人もいましたが、「外に出ないでほしい」という意見に賛成の人も一定数いました。これを見て僕は、

このような意見を持つ人も少なからずいるのだなと思いました。

そこで、僕はいろいろ調べてみました。すると、「外に出ないでほしい」という意見には様々な意味があることを知りました。その中でも、「医療従事者の人はコロナ患者のより近くで生活しているため、かかっているのではなにか」という意見が多数見られました。僕はこの意見を見て、「確かにそうかもしれない」と思っていました。コロナ患者や感染していると思われる人と接している人はやはり感染している確率が高いのではないかと。

しかし、このことについてより深く調べていくと、「病院の感染対策について」という記事を見つけました。この記事には、なるべく接しないように一人一部屋にしたり、

マスクを二重にすることができるだけ飛沫を飛ばさないようにしたりするなど、本当に感染対策に全力を尽くしているのだなと思わざるを得ないものばかりでした。医療従事者の方たちは、本当に気を付けてお仕事をされていて、感染する確率は非常に低いそうです。今はあまり「外に出ないでほしい」などという声は減りましたが、今もなお少なからずこのような意見を言っている方はいます。

このことについて調べてみて、僕は、本当に良かったと思います。色々な意見を見て、様々な人の考え方を知り、とても良い勉強になったと思います。僕の将来の夢は看護師です。いい看護師になれるよう日々頑張っていくことと、差別しない、差別を許さないよう過ごしていきたいと思えます。

《選評》

将来の夢が看護師ということから、コロナ禍における医療従事者への差別発言に心を痛めた様子が伺えます。また、その発言に至るまでの経緯を深く調べ、人それぞれに色々な考え方があることをうまくまとめられています。

結びの言葉にも自らの強い目標と差別に対する固い意思を感じさせてくれるすばらしい作文です。

《特選》

ふつう

中央中学校 3年

よしだ
吉田 詩歩 さん

ふつうって、なんだろう。

めがねをかけているひとは、
めがねのある生活がふつう。

車いすに乗っているひとは、
車いすのある生活がふつう。

そのひとがうまれ育った地区は、
そのひとのふつう。

はだのいろがくるのひと、
はだのいろがきいろのひと、

はだのいろがしろのひと、
それぞれのひとのふつう。

おんなをすきになるひと、
おとこをすきになるひと、
それぞれのひとのふつう。

ふつうってなんだろう。

ひとのかずほど、ふつうがある。
ななじゅうおくの、ふつうがある。

だけど、ひとは

「ふつうじゃない。」
「それがふつうだよね。」
ふつうか、ふつうじゃないか、
気にする。

目の前にいるひとのふつうは、

じぶんのふつうとはちがう。

たくさん、たくさん、ふつうがあつまって
みんな、
みとめあえたらいいね。

《選評》

「人の数ほどふつうがある。七十億のふつうがある。」人はそれぞれ違っていたり前だと訴えている詩です。

社会(地域)はいろいろな「ふつう」が集まって成り立っています。確かに皆がそれぞれの「ふつう」を認め合って生きていけたらもっとすばらしい社会(地域)になるでしょう。改めて「ふつう」の定義を考えさせられるすばらしい詩です。

《入選》

心ほぐれる人権社会に

南中学校 1年

江畑 えばた かずや 和哉 さん

言葉とは何だろうか。ぼくが思うには、言葉とは「その人の本質を映し出す鏡」だと考える。言葉にも種類がある。「温かい言葉」や「優しい言葉」もあれば、「汚い言葉」や「人を傷つける言葉」だってある。いろんな言葉で人とつながっているが、その言葉によってまわりからどのような見られているのだろうか。言葉によつては、人権が侵害されていることもある。

近年、LINEやSNSなどのコミュニケーションアプリを使った悪口やいじめが増えている。悪口で心をケガする。相手から送られてきた「きもい」や「死ね」とい

った傷つく言葉を見てどう思うだろうか。今は便利なことに「削除」という機能がついていて送った文章などを消すことができる。後から、先生や親に知られたくないからや相手に申し訳ないからといって文章などを削除する人がいる。形としては削除されるが、送られてきた人の心からは一生消されない。

既読がついていなかったから、相手は読んでいないから別に大丈夫だろうと思う人もいるかもしれないが、送られてきて、メッセージを消された人はどんな考えが頭をよぎるのだろうか。ただ「メッセージが取り消されました。」という文からどんな感情を抱くのだろうか。「何を送られたのかな。」「何。」などと困惑するだろう。

もし、これで命を落としたら「殺した」ことになる。武

器で人を殺さなかったとしても言葉で人を殺したことになる。そんな言葉をぼくたちは使っているのだと考えると言葉というものを適切に使わないといけないことや自分が言ったことには責任を持たなければならぬということに改めて伝わってくる。

全ての人に同じ言葉使いではない。人との距離をしっかりと考えないといけない。よくしゃべる人、あまりしゃべらない人、仲が良い人、あまり仲良くない人、いろんな人がいる。でも、しゃべる時がある。その時はどんな口調で相手と接すればいいのかをしっかりと考えながら話すことが大切だ。

今は、コロナ禍で不安や悲しみなどをだれもが抱えている。そして、三密を避けなければいけなく、人と人との距離も離れてしまっている。

その影響でSNSやLINEなどによつて人権が侵害されている。こういう世の中だからこそ、「言葉」で心と心のディスタンスを縮めていき、コミュニケーションをとることで心を打ち解けさせることが大切だと考える。人と何度もコミュニケーションをとることをとり、その中で人との距離を知る。誰もが心ほぐれる人権社会に。

《入選》

差別の意識

稲枝中学校 1年

藤野 友希 さん

私は「ちがいのちがい」や人権のことを学んだ中で、感じたことが二つあります。

一つ目は、世界人権宣言の学習をした時に三分の一ぐらいの項目が当たり前だと感じたことです。日本では、人を物のように売り買いうることも、決められた宗教を信仰しないといけないことありません。そんな平和で自由な国に生まれたため、世界人権宣言の学習をした時も、正直に言うともあまり実感できませんでした。しかし、このように三十条も定められているということは、過去には世界人権宣言の中に入れるきっかけとなったこと

があるからだと言われ、そこで初めて、この宣言の重要さを実感することができました。

二つ目は「ちがいのちがい」の学習で、男女差別についての考えたことです。男女差別は、どこまでが差別で、どこからが差別ではないのかの線引きがとても難しかったです。例えば、兄弟の中で、姉や妹など、女性だけに家事を言いつけ、兄や弟など、男性には何も言わない場面。私は、この場面は、日本の「女は家で家事をするべき」という古い考え方が表れており、男女差別にもなるため、あまり良いものではないと思います。どうして私がこんなにも日本の古い考えを否定するのかわかると、私にも例で挙げたような体験があるからです。それは、毎年の元旦のことで、毎年、新年には、祖父の家で親戚一同が集まり、食事

をしています。お年玉ももらえるし、たまにしか会えない親戚とも会えるので楽しいのですが、どうしても納得できないことがあります。それは、後片付けです。兄弟やいとこの中で女は私しかいません。なので、食事を終え、テレビを観たり、話したりしていても、片付けで真っ先に呼ばれるのは私だけなのです。それ以外の兄弟やいとこは、こたつに入ってまったり過ごしています。それを見ながら片付けをしていると、どうして女ばかり…という疑問が浮かび、しばらく消えることはありません。きつと、私と同じような体験をして、嫌な思いをした女性も少なくはないでしょう。そのため日本に古くからある、男尊女卑的な考え方が、人々の意識の中から無くなる日が早く来てほしいです。

私は、人権学習を通して、あってもよい違いと、あってはならない違いの区切りは、人によって全く異なると分かってきました。その感覚の違いが、思わぬすれ違いを生み、その結果、嫌な気持ちになる人がいると分かりました。みんなの意識や感覚を統一することは難しいですが、それぞれが相手のことを気づかうことで、少しでも嫌な気持ちになる瞬間が減ると思います。なので私は、常に相手の気持ちを考えて発言し、どんな「ちがい」も受け入れられる人になりたいです。

《入選》

いろんな形があつていい

中央中学校 1年

すみだ 角田 ななは 奈巴 さん

差別は どうして 起こるの
か。

私は差別は、差別の対象に
される人が普通ではないと
決めつけられて、起こってい
ると思います。そもそも普通
とは、何なのでしょう。差別
は、身の回りの様々な場
面で起こっています。具体的
な例を三つあげます。

一つ目は、学校生活の中
で。この人なら何をしてもお
こらないから何でも言ってい
い、だけどあの人は、おこ
ると怖いから嫌な言葉は言
わないようにしよう。そうい
ったことも差別の対象になる
と思います。誰だって嫌な言
葉を言われると、傷つくのだ

から、どんな人でも、相手の
気持ちを考えることが大切
だと思います。

二つ目は、トランスジェン
ダーの人について。よく、ニ
ユースなどで、トランスジェ
ンダーの人への差別や偏見
についての話を耳にします。
私はいつも、どうして人それ
ぞれの個性なのに、その人た
ちは冷たい視線を向けられ
なければいけないのだろう
と思います。

三つめは、人種差別につ
いて。肌の色が他の人と違う
だけで差別の対象になるのは
良くないと思います。だから、
最近ではうすいオレンジ色
のことも、「肌色」ではなく
「だいたい色」と言われてい
ることに私も賛同します。う
すいオレンジ色を「肌色」と
言うことで、肌の色はうすい
オレンジ色が普通だという
基準を定めてしまっている
からです。

このように、差別は人の思
いこみや、決めつけによって
生み出されていると思いま
す。形にも、丸だけでなく四
角や三角といった、様々な形
があるように、人にも様々な
個性や感性、見た目があつて、
それらを尊重し合うことで、
差別はだんだんなくなつて
いくと、私は感じます。互
いを認め合い、相手への理解を
深めていくことで、皆が居
心地良く、暮らせる社会にな
ると思います。

私は、これからもっと、相
手の気持ちを考えることを
大切にしていきたいです。そ
して私自身の個性も大切に
生きていきたいです。

《入選》

コロナ禍での出来事

彦根中学校 1年

みずの 水野 結萌 さん

二〇二〇年から二〇二一年にかけて世界で新型コロナウイルスが大流行した。日本でもコロナウイルス感染者や死亡者がたくさん出た。そんなコロナウイルスが流行している中で特にひどかったのは偏見や差別だと私は思う。ニュースや周りの大人から聞いた偏見や差別の中で特に衝撃を受けた二つの話がある。

一つはニュースで見た話だ。電車の中でせきをした人に対して

「電車から降りろー!」と、ひどい言葉をあびせた人がいたのだ。そのニュースを見た時はまだコロナウイル

スが広がりはじめたばかりで、私の地域では感染者も少なかったため、

「ひどい人もいるんだな。ぐらいいにしか感じなかった。コロナの中で生活に慣れてきた今になって思う。もし

かしたらその人はただ花粉症だっただけかもしれないし、何も悪くなくても息がつかまってしまっただけかもしれないな。しかし、治療方法が見つかっていない新型コロナウイルスが流行しているために、勝手に悪者扱いされるのはおかしいはずだ。

「もしかしたらあの人、何かの病気なんじゃないの?」という偏見によって誰かが傷つく。このニュースを思い出すと、私も偏見の心を持ってしまっていることに気づいた。

「あの人絶対どこか悪いんだ。」とか、

「あの人って悪いかわさしか聞かないし嫌だな。嫌いだな。」

と思ってしまう自分がいたのだ。

二つ目は、コロナ感染者に対しての差別だ。感染した人を罵ったり、その人の家に落書きをしたりしている人がいたと祖父や祖母に聞いた。

この話を知って初めて本当の人間の怖さを感じた気がした。いつ、誰が感染してもおかしくないこの状況で、感染者を差別し、嫌がらせをするなんて考えられないと思った。いくら自分を守るためだからといって、人を傷つけることは絶対にあってはならない。自分がその人の立場だったら、

「何でこんなに差別されなきゃいけないんだ。つらいよ。」と感ずるだろう。自分がされて嫌なことは人にはしない

というのは、このことだろうとしっかりと理解した。

コロナ以外での偏見や差別だってまだたくさんあるし、コロナによる差別も無くなっているわけではない。これからの私たちが社会で生きていくなかで大切なのは、偏見の心をなくすことと、自分がされて嫌なことは人にはしないということだ。偏見の心を持つたり、人に嫌なことをしたりすると、絶対に誰かが傷つき、それが差別につながるっていくのだと思う。

「自分自身ができることを考え、行動に移す。たくさんの人と関わり合いそれぞれ個性を受け入れる。」

これが、私の目標だ。みんなを変える前に、まずは自分の心を変えたい。一人が偏見や差別の心を無くせば、周りの人も自分の心や差別と向き合っていくだろう。

《入選》

差別について

稲枝中学校 3年

室井 美優 さん

私たちの周りにはたくさん
の差別と偏見がある。例えば障がい者差別や男女差別、人種差別だ。多くの人が差別はとても悪いことであり、絶対にしてはならないことだと分かっているはずだ。しかし、差別はまだたくさん残っている。正しい知識を身につけ、差別に気づき、差別を無くすために私は色々な人話を聞いたり、人権学習をしたりしている。そして、私は二つの差別についてもっと知りその差別を無くすために行動したいと思っている。

一つ目は男女差別だ。男女雇用機会均等法が定められ、

性別による就職差別は今あまり見られない。しかし、性別の偏見はまだ残っている。例えば、制服だ。男子でセーラー服を着ている人は見かけないし、女子で学ランを着ている人も見かけない。女子の制服はスカートで男子の制服はズボンという考えはまだ残っている。そういう考え方は無くして、女子もズボンがはけて、男女の区別をつけないような制服を、偏見を無くすために作ってほしいと思う。また、他にも性別での偏見がある。それは、育児や料理などの家事をするのが女性だという考え方だ。ほとんどの家庭で、男性より女性のほうが多く家事をしていると思う。総務省の調査でも、夫より妻の育児時間がのほうが圧倒的に長いことが分かった。今は専業主婦は多くない。昔とは違い女性も男性と同じように外へ

出て働いているのだから、男性も女性と同じぐらい家事をするべきだと考える。私の家では、家族で家事を分担しているのだが、やはり母が皆より多く家事をしているので改善していきたい。このような不平等を無くして本当に男女が平等になるようにしたいと思う。

より知って、無くしたいと思った二つ目の差別は部落差別だ。私が部落差別を知ったのは中学生になってからだ。中学校の人権学習をするまで、私は部落差別があることすら知らなかった。しかし、部落差別はずっと昔から存在している。昔、死や出血などの通常とは異なる事態に関わることをケガレと呼んでいた。ケガレにふれたり、元の状態にもどす仕事をしている人は河原者と呼ばれており、おそれられ、差別されていた。しかし、この人達

は庭園造りなど文化的なことなどにも高度な技術をもっていた。実際に、杉田玄白が解体新書を書くために解剖に立ち会ったが、解剖をした人は差別されていた人だったそうだ。こんなにすごい人達が差別されていて、今もお、その差別が残っていることがとても悲しい。

少しでも差別が無くなるように、人とのちがいを認め、相手の立場になったときのことを考えながら行動したい。そうすることで差別が無くなるための第一歩になると思う。だから、周りに流されずに自分が正しいと思うことを曲げずにこれから生活していきたい。

《特選》

障害者差別

彦根総合高等学校 1年

佐々木 千紘 さん

私の友だちにはダウン症の子がいます。彼女は私と同じ年齢で、高校は離れてしまっただけ、今でも仲良くしています。

小学生の時に合唱コンがあり、彼女は話すことが苦手だったけれど一生懸命に取り組んでいました。しかし、その姿を見た周りの人たちは彼女を冷やかしたり、笑ったりするなど差別行為をしていました。でも彼女は、周りから何を言われても誰よりも努力して頑張っていました。彼女は彼女なりの努力をしているから周りの人たちもそれに気づいてほしい

と強く思いました。

障害者の方についてみなさんはどのような考えをもっていますか。どんなことを考え、行動し、どんな風に思っただけは人それぞれです。ですが、その行動を間違えることで相手が傷つくことがあります。もし自分が傷つけないように行動していても相手の人が嫌だと思っただけだったりします。

私も障害者の方についてどんな考えをもっているか考えてみました。改めて考えるとすぐに答えは出てきませんでしたが、私は障害者の方も健常者の方もみんな一緒の人間だと思いました。障害者の方と健常者の方で見え方が違う部分もあるかもしれないですが、ですが見たためだけみて相手のことを知ることはできません。努力して頑張っている人たちはたくさんいます。お互いの努力して

いることを見て気づいてほしいと私は思いました。見ためだけで判断しないで相手の人のことを知るといふことが大切だと思いました。みなさんも障害者の方についてどう思うか一度しっかり考えてみてほしいです。そしてお互いを認め合ったり、支え合ったりしていけたらいいなと思います。

私は、差別をしてはいけないとかみんな一緒の人間だと言っていました。もちろんそう思っているけれど、自分が気づかないうちに差別的行動や発言をしてしまっていることは絶対にあります。自分で自分の行動を見直し、改善していきたいなと思います。また、自分は差別をしていないと思っただけでも相手を傷つけていたという人たちは周りにたくさんいます。だから、自分では気づけないことを周りの人たちが

気づき教えてあげることが大切だと思いました。周りの人たちから教えてもらう前に自分でも今の行動、発言は相手を傷つけてしまうことだったのかを一度考えて、改善し、実行していくことも大切だと思いました。

この作文を書いて障害者の方、健常者の方がお互いに支え合っていく社会にしたいなと改めて強く思いました。

《選評》

障害がある長年の友だちとの友情を通して、障害者がある人なりに努力していること、健常者だけでなく様々な人が社会で支え合っていること、人を見た目だけで判断しないこと、自分自身も差別的な行動や発言をしているかも知れないという自戒も込めながら、気づきを教え合うことの大切さなど、障害者理解に対する心の叫びのようなものが感じられる優れた作文です。

《入選》

自分らしく

彦根総合高等学校 1年

上運天 美海 さん
かみうんてん ちゆら

私は、中学生の時に人権学習である人に出会い周りの見え方が変わりました。その方は、LGBTの方です。話を聞いてみると、もともと女性の方で今は、男性として生きています。世の中にそういう人がいるということとは、知っていたけれど、実際に会ったことはなかった。ので会えたことはいい機会になりました。そこでLGBTとはどういうものか教えられました。LGBTは、4つの種類に分けられます。Lはレズビアンです。心の性が女性で好きになる性も女性になることです。Gは、ゲイです。心の性が男性で好きに

なるのも男性のことです。Bは、バイセクシュアルです。男性も女性もどっちも好きになってしまうことです。Tは、トランスジェンダーです。体の性と心の性が一致しないということ。この4つに分けられます。私が実際に会ったのは、トランスジェンダーの方です。生まれたのは、女性として生まれましたが、3才ぐらいになると自分に違和感を感じたそうです。遊びも服も周りの女の子とは違っていたそうです。違和感を感じながら過していくと、お風呂の時には自分の体を見るのが嫌で鏡を隠していたそうです。それが嫌である日体を手術したそうです。今でも月に何回かは病院に通って過していると言ってくれました。手術したあとは、すごく楽になったそうです。その話を聞いた時に大きな決断もあったし、とっても苦

しい日々を過していたと思います。LGBTの方は周りにいないと思っている方が多いと思いますが、実は約13人に1人はいるそうです。40人のクラスだったら約2人はいるそうです。とってもびっくりしました。テレビで活躍する方もたくさんいることがわかりました。その方達も今では、あたり前にテレビに出ていけるけれど大変なことがあって今があると思います。LGBTの方は、まだ私達のことについて知らない人が多いのもっと知ってほしいと言っています。なので、LGBTという正しい知識をもってほしいです。そのことを聞いてLGBTをもっと詳しく知りたいたいと思いい図書館に行きました。LGBTについてのマンガがありました。マンガが当たらずわかりやすく学べると思いマンガを選びました。見

てみると話をしてくださったことがわかりやすく書いてありました。もし身近でLGBTについて悩んでいる人がいたら優しくよりそっていきたいです。まだまだ同性愛などが認められずたくさんの方が苦しんでいるので、一人でも多くの方がLGBTのことを知り認められる日が来てほしいです。話を聞いてから、みんなそれぞれ違っていいということと自分らしくということがあらためて学習することができました。

《入選》

ネットの怖さや聴覚障害者について

彦根総合高等学校 1年

友野 ともものしんや 慎哉 さん

私は、人権や差別について色々と考えてみました。今はネットが当たり前の時代です。SNSでは、沢山の方が色々な内容をアップしてありますが、その内容を見てアンチコメントを見ることもあります。どうして誹謗中傷や否定的な内容のコメントをするのでしょうか。見ず知らずの人にアンチコメントをし、それを見て傷つく人も沢山います。ひどい場合は追いかまれて自殺をしてしまうほどSNSの存在は怖いのです。テレビで「3年A組・今から皆さんは、人質です」というSNSに対しての怖

さや大切さを教えるドラマがありました。それを毎週見ている、いじめにも色々ないじめ方があり、それに対して死に追いつめられ本当に怖いと思います。どこにでもあり得ることだと思います。自分自身、いじめられる立場やいじめられる立場にならないように、ネット関係は気を付けたいと思いました。その他に、聴覚障害者について親に聞いてみました。両親の会社には、何人か聴覚障害者の人が一緒に働いています。私が小学校の頃に両親の会社に何度か工場見学に行ったことがあります。その時に、耳が聞こえにくい人と一緒に写真を撮ったことがあります。すごく笑顔で接してくれます。僕の両親は手話はできません。どう対応してるのか聞いてみると口を大きくひらいて話したり、筆談したりしているみたいです。会話をする

と少しずつ手話も覚えていくみたいです。母親が何冊か手話の本を買っており家にあるのを見ました。しかし今はコロナでマスク着用で外せないこともあり、口の動きがわからないのでなかなか大変みたいです。苦労している点を聞いてみました。やはり、耳が聞こえる人と聞かない人とは、色々努力をしてもなかなか伝えることはむずかしいみたいです。今はスマホでもアプリがあるのでアプリも活用しながら対応をしているみたいです。私自身、聴覚障害者の人が周りにいないので、実際にそういう場面になるとどういう対応をするのか想像ができませんが、障害者という扱いをするのではなく、今回、母からの色々な対応ができることを学んだので健常者と同じように対応し、その人が不便なく対応できる方法を

考えていかなければいけないと思います。

《入選》

みんながみんなのために出来ること

彦根総合高等学校 1年

北川 莉々子 さん

みなさんLGBTという言葉を知っていますか。LGBTとは、言葉の頭文字をとって組み合わせた言葉で、性的少数者を表す言葉の一つです。Lはレズビアン、Gはゲイ、Bはバイセクシャル、Tはトランスジェンダーです。それぞれ性的指向や性自認を表す言葉です。

LGBT差別などの問題が注目される中、正直自分には関係のないことだと思っている人がたくさんいることと思います。私も少し前までそうでした。中学生の頃、授業で何回かLGBTについて学習して、こんなにもい

るのに私の周りには一人もいないなと思っていました。

ある日、友人から「聞いてほしいことがある。」と言われ話を聞くと、「私は中性、Xジェンダーというものの。」

と言われてました。あなたには伝えておきたかったからという理由で勇気を出して教えてくれたのです。私は正直、頭が混乱していました。今まで女の子だと思って接していたけど大丈夫だったのかなという不安もでてきました。このことを教えてくれたいる数少ない人の中の一人になれたからには協力してあげて少しでも日々の負担を減らしてあげたいと思い、学校生活で辛いことはあるか聞くと、男女別で列に並ぶ時、着替える時、トイレの時などたくさん出てきました。また、中性なので自分自身でも性別が分からなくて、とりあえず見た目の性別に合わ

せるしかないという悩みもあると聞きました。そんな時は私は女子生徒もズボンを選べるようにした方が良く学校に提案することしかできませんでした。

こんな風に、今まで普通に接していた子からLGBTだと言われたら何をしよう。正直とが一番なんでしょう。正直正解はないと思います。

私はずっとLGBTの子が身近にいないから自分には関係のない問題として考えてきましたが、いないのではなくて、知らないだけだということがこの経験でよく分かりました。今では、十一人に一人がLGBTであるといわれています。LGBTが増え続けている中、差別をなくすため、LGBTの人たちの負担を少しでも減らすために、知らないだけで自分の周りにもそういう子はいるといふ考えをみんなが持

つこと、LGBT自体を理解することが一番大切なのではないかと私は思います。教えてもらっていないと直接その子の助けはできませんが、こういった考えをみんなが持っていることだけでもLGBTの人たちの「私はみんなと違う。」「変なんだ。」という思い、考えが大きく変わると思います。

一人ひとりの理解が知らないところで友達を救っているかもしれないという考えが広まって、最終的にはLGBTという概念自体が無くなるといいなと私は思います。

《作文部門総評》

小学生の部に一三〇点、中学生の部に四八点、一般の部に二五点の応募があり、応募総数は二〇三点でした。多くの方のご応募をいただき、ありがとうございました。

すべての部において、文章構成、表現に長け、自らの経験や学校の道徳科の授業や人権学習等で学んだこと、そこから得た気付きや思いを今後にどう活かし、どう自分と向き合うのか、また、「違い」を認め合うこととは、と自らに問いかける作品が多いという感想が選考委員からあがりました。「人権尊重の思いを読み手に強く伝えようとしているか」「自らの経験に基づいているか」「自らの言葉を用いて論理的に文章を書いているか」等の観点をもとに、甲乙つけがたい作品の中から、特選、入選作品を選考しました。

【小学生の部】

学校や家庭での経験や、総合的な学習の時間、道徳科、人権に関わる学習や活動等の中で学んだことなどをもとに、自分の言葉を振り返ったり、日々の様々

な場面で尊重されるべき人権について深く思いを至らせたりしている作品が多く見られました。一人の人間としての「自分」から、家族、友達、そして、動物愛護を通じた生命尊重や、男女、人種、

新型コロナウイルス感染症に関連した差別など、発達段階に応じて視野を広げ、誰もが幸せに生きる権利について、自分の気付きや思いを綴っていることが深く印象に残っています。高学年児童の作品には、性の多様性を認め合うことの大切さを題材とする作品もあり、自分を支えてくれる周りの人たちへの感謝の思いを深め、互いに寄り添うとともに、違いを理解し合うことの大切さに改めて目を向けている作品が、各学年に見受けられました。いじめをテーマとする作品には、いじめを「しない」「させない」こと、そして傍観者にも決してならないことを誰もが貫こうと、強く呼びかけていました。

また、他者だけでなく、自分や自分の学校生活、家庭生活も振り返り、自分の良さや個性に目を向けた作品に触れ、子どもたちが、これから先の人生において、健やかに自尊感情を育んで

ほしいという願いを強くしました。ありのままの自分を大切にすると、自分との向き合い方も大切にしていききたいものです。

今後、日々の生活の中で、人権尊重の認識が一人ひとりの心の中に確かに培われることを願います。

【中学生の部】

人権学習や道徳科の学習等で学んだことと、自らの経験を重ね合わせながら、自分の思いや気付きを論理的に力強く発信しようとしている作品が多く見られました。差別やいじめの現実を感情論としてただ嘆くのではなく、そこに潜む弱さや他者への意識の低さ、歪んだ自尊感情の維持や自己防衛という側面をとらえ、自分に何ができるかを探りながら立ち向かおうとする毅然とした思いを、どの作品からも感じました。

部落問題をとり上げた作品は、脈々と繰り返されてきた、理不尽で不合理な差別に、憤りとともに自分のできることを追い求めていくという強い決意を感じました。また、人種、男女、職

業、障害等に関わる差別、SNS等による人権侵害などをテーマとした作品も特選・入選作品となりました。どのような違いも、「当たり前」として受け止めること、人を深く傷つける媒体ともなり得るインターネットやSNSについて、常に相手意識を持ちながら利用することの大切さを強く呼びかけていました。

どの作品も、身のまわりで起こる一つ一つの出来事に鋭く人権感覚を傾け、気付きや他者との向き合い方について、論理的に文章を書き進めている様子が見えがえしました。

【一般の部】

幅広い年齢層の方から応募いただきました。これまでの人生の中で出会った一つ一つの場面や、心が震えるような他者との関わりなどを大切に綴っていた作品に触れました。ご自身やご自身の人生を大切に、時間を積み重ねてこられたことが伝わり、深く心を動かされました。

また、障害のある方との関わりをテーマとする作品の中では、その中で得た気付きや思いを、読み手である私たちへも投げか

けているように感じました。障害の有無によって分け隔てられることなく、互いをよく知ることで、人格や個性を尊重することを、改めて大切にしたいと考えます。

多様な性について、自らの経験をもとに取り上げた作品も入選作品となりました。自分や身の回りの習慣や常識について立ち止まり、多様な性について知ろうとすることに加え、自らが理解を深めたいという思いが力強く表現されていました。

人と「関わる」とは、知ろうとする働きかけだとする作品も複数見受けられたことが深く心に残っています。

今年度も、新型コロナウイルス感染症の拡大に歯止めがかからぬ兆しがなかなか見えません。このような、不安定で先が見えない状況の中でこそ、身近な家族や友達、周りの人たちと、互いに大切にしながら確かなつながりを築いていただきたいと願っています。その中で、様々な価値観や多様性を認め合い、一人ひとりが「自分らしく」生きることが実現するよう、強く念じています。

応募いただいた作品は、読まれた方に「人権とは」と、鋭く投げかけて来ています。日常生活の、何気ない光景の中で、人権の重みや人としての在り方に、人権意識のアンテナを高く張っていることが伝わる多くの作品に出会わせていただきました。今後も勇気をもってどんどん文章などで発信していただき、人権尊重の願いが広く確かに醸成される貴重な機会となることを願ってやみません。

(高橋 乃生子)

作文部門選考委員

高橋 乃生子

竹内 彰

松岡 一男

標語部門
入賞作品

小学生の部

《特選》

ともだちのえがお
大すき
じぶんのえがおも
大すき

金城小学校1年 尾本 愛理 さん
おもと あいり

《入選》

あいさつは
なかよくなれる
まほうだね

亀山小学校2年 辻井 玲奈 さん
つじい れな

《入選》

広い世界
個性いろどる
出会いあり

稲枝東小学校5年 中川 未羽 さん
なかがわ みう

《特選》

みつけたら
いじめの草を
ひっこぬけ！

旭森小学校4年 高山 陽向 さん
たかやま ひなた

《入選》

みんながね
ちがうところが
あっていい

旭森小学校3年 河野 雅 さん
こうの みやび

《入選》

気がついた
そのときふみだす
第一歩

城東小学校6年 関 晴香 さん
せき はるか

中学生の部

《特選》

人権の
「あい」ことばとは
認め合い

彦根中学校1年 森もり 來夢ななみ さん

《特選》

君だけが
できることも
あるんだよ

南中学校2年 木村きむら 彪紅びやくや さん

《入選》

あなたはね
一人じゃないよ
大丈夫

南中学校2年 佐野さの 心優みゆ さん

《入選》

いじりはね
いじめの小さな
種になる

西中学校3年 水田みずた 和航わたる さん

《入選》

三密を
避けても心は
離れない

南中学校3年 石野いしの 稜空りく さん

《入選》

思いやり
心を支える
プレゼント

南中学校3年 西堀にしほり 有咲ありさ さん

一般の部

《特選》

君がいる
ただそれだけで
十分さ

ジョイソン・セイフティ・
システムズ・サービス株式会社

あおやま
青山 純子 さん

《特選》

ありがとう
優しい言葉
心のカイロ

株式会社ブリヂストン 彦根工場

あさい
浅居 祐一 さん

《入選》

S N S
悪口ひとつで
S O S

東びわこ農業協同組合

こにし
小西 雄二郎 さん

《入選》

増やそうよ
地域の和と輪
五輪のように

東びわこ農業協同組合

いわさき
岩崎 里歩 さん

《入選》

鍛えよう
腕より心の
力こぶ

株式会社ブリヂストン 彦根工場

おしたに
押谷 浩司 さん

《入選》

ほっとする
そのぬくもりに
いだかれる

(個人応募)

たかはし
高橋 時子 さん

《標語部門総評》

標語部門には、小学生の部二四八点、中学生の部八八点、一般の部四四点、総数三八〇点の応募がありました。どの作品にも身近な生活と結び付けた、人権尊重の強い思いや願いが感じられました。

「はーとふるメッセージ」の趣旨は、「人権について考える機会を提供する」とともに、「啓発に活用し、人権意識の高揚とあらゆる人権問題の解決に資する」ことです。応募いただいたみなさんが、自分の普段の生活の中で感じた互いの人権を守ることの大切さや人と人とのつながりの大切さなど、標語を考えることで改めて人権について考え、人権意識を高めていただいたと思います。そして、一人ひとりの人権が尊重され、差別のない明るく住みよいまちづくりをめざす強い思いや願いをこめて、心温まるメッセージとして作って

くださったと思います。

小学生の部では、「ありがとう」「笑顔」「あいさつ」など人とのつながりによって感じる喜びや楽しさ、「言葉」は人を助けることも傷つけることもあること、「いじめ」は絶対に許さないという強い決意などについて、各学年の発達段階に応じた素直な表現の作品が多く見られました。

中学生の部では、小学生の部に見られたことに加えて、「思いやり」「優しさ」など人と接する上で大切にしたいことや、「一人じゃない」「一緒に」「みんなで」など自分も他者も大切にしたいというメッセージ性を持ったもの、日常生活の中での何気ない言動について考えてみようと呼びかけるものなど、より広い視点から人権について考え、積極的な行動を呼びかける作品が多く見られました。

一般の部では、「絆」「和」「輪」など地域での人と人との心のつ

ながりや、明るく住みよいまちづくりのために一人ひとりが心がけたいことなどを工夫した表現で標語にしてください。さらに、が多く見られました。さらに、「SNS」「コロナ」「ジェンダー」「外国人」「ハラスメント」など今の社会全体で取り組まなければならぬ人権問題について考え、応募してください。作品も見られました。

各部ごとに審査をしましたが、基準としたことは「啓発に活用する」ものですから、標語を見たときに意味がわかりやすく、自分中心として受け止められるか、また、「○○しない」だけではなく「○○する」「○○しよう」と積極的に行動に移そうという意欲が高まる標語になっているかということ。そのため入賞作品は、明るくポジティブな気持ちが高まるような作品となっています。これらの標語を見た人たちが、人権意識を高め、差別のない明るく住みよいまちづく

りの主体者として積極的に行動に移してくださることを期待しています。

また、標語という短い表現です。印象に残るようなメッセージとなっているかという点も大切です。思いや願いを素直にそのまま表現するだけでなく、ちょっとした表現の工夫があったり、「五・七・五」にとられず自由なリズムであったりということも思いま

す。これからも多くの方が、人権尊重の熱い思いや願いを標語にして応募してください。彦根市に温かい心があふれる(はーとふる)ことを願っています。

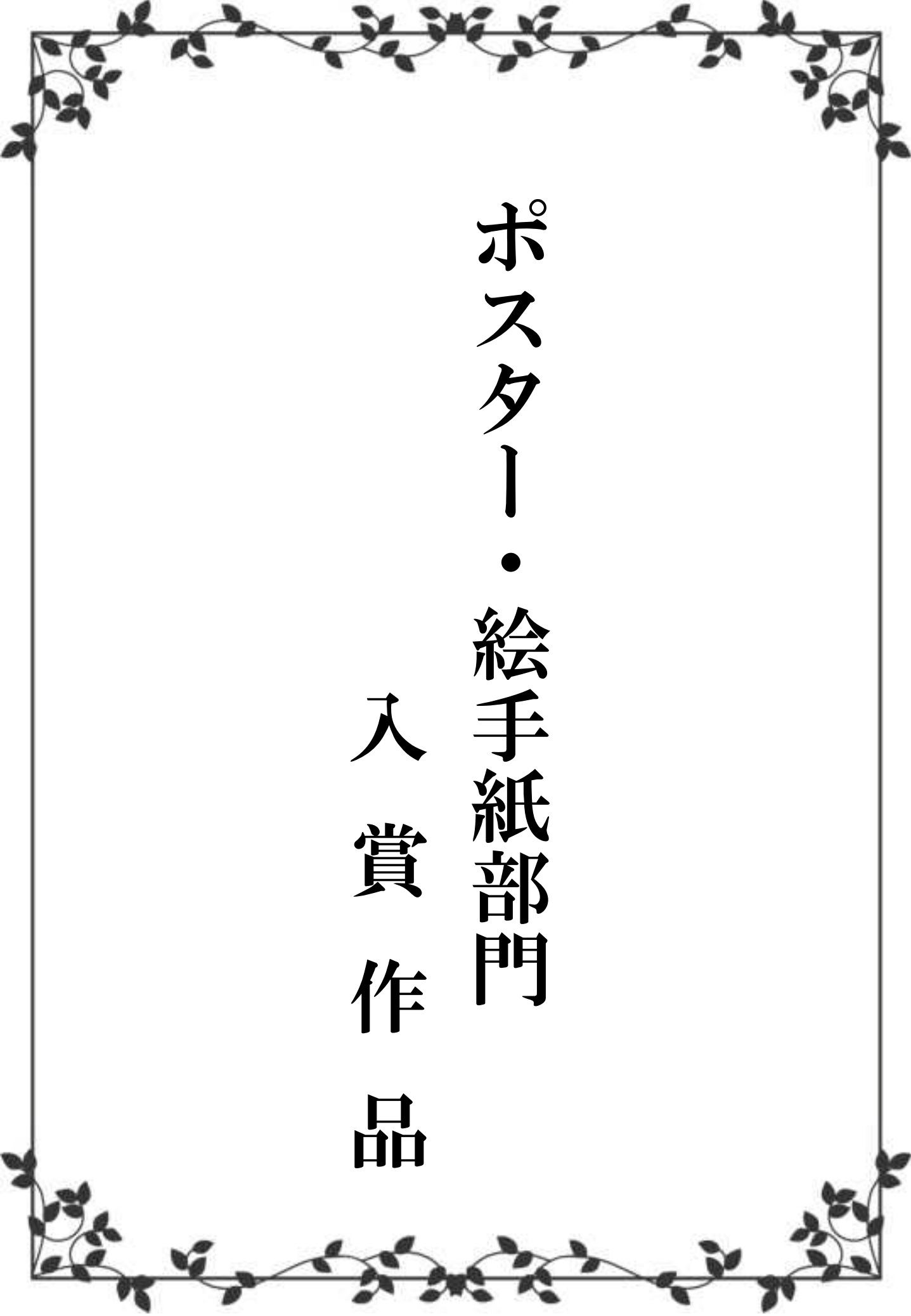
(前田 利幸)

標語部門選考委員

田口 全男

東 幸子

前田 利幸

A decorative border with a repeating floral and leaf pattern, framing the central text.

ポスター・絵手紙部門
入賞作品



《特選》 みんな えがおいっぱい
城東小学校2年 にしむら 西村 りさ 莉咲 さん



《特選》 いっしょがいいね
若葉小学校2年 はっとり 服部 ひかる 煌 さん



《特選》 たった一言「ありがとう」 そんな一言花が咲く ※絵手紙
河瀬小学校5年 ^{きしもと}岸本 ^{ななみ}七海 さん



《入選》 みんな だいすき ※絵手紙
ABC ENGLISH プリスクール ^{ぼんどう}坂東 ^{かほ}夏帆 さん



《入選》 みんなともだち
 城西小学校 1年 かわぐち 川口 みお 実桜 さん



《入選》 たいせつなともだち
 旭森小学校 1年 こてら 小寺 ゆい 優結 さん



《入選》 いっしょにあそぼう ※絵手紙
 城南小学校2年 きたむら 北村 さえ 咲恵 さん



《入選》 ともだちいっぱい
 稲枝西小学校2年 にしだ 西田 にか 寧花 さん



《入選》 地球が笑顔の花になろう！私の笑顔みんなの笑顔
 城西小学校5年 なかむら ゆの 中村 友乃 さん



《入選》 人生にやまない雨はない ※絵手紙
 河瀬小学校5年 むらにし あきと 村西 諒音 さん



《特選》 普通なんて 誰が決めた
彦根中学校 2年 きたがわ 北川 あい 愛 さん



《特選》 雑木林の先にまつ未来 ※絵手紙
西中学校 3年 はやし 林 ゆうすけ 優輔 さん



《入選》 一歩ずつ進もう～差別のない、明るい社会へ～ ※絵手紙
西中学校 1年 ^{かみの}神野 ゆり さん



《入選》 差し伸べた手が 誰かを救う
西中学校 2年 ^{くどう}工藤 ^{あやか}藍椰佳 さん



《入選》 笑顔あふれる西中人権 ※絵手紙
 西中学校3年 ^{まぶち}馬淵 ^{あゆむ}歩夢 さん



《入選》 隠れた 痛み ^{わかばやし}に ^{みく}気づいてる?
 彦根中学校3年 若林 美空 さん



《特選》 その一言で 心救える 優しさを
彦根工業高等学校 1年 ^{みち}道 かのん さん



《入選》 大切な命
彦根工業高等学校 1年 ^{かとう}加藤 ^{だいき}大暉 さん

《ポスター・絵手紙部門総評》

作品募集要項の「人権の大切さを訴える あなたのメッセージを届けてください」に添えて、

今年も多くの方から、「人権の大切さ」を絵や言葉で表現したポスターや絵手紙の応募がありました。三年前から、ポスター部門に「絵手紙」が加えられました。

初年度は、どちらかというとポスターのミニチュア版という感じの作品が多かったのですが、徐々に「絵手紙」らしい作品が増えてきているように思います。

絵手紙は単なる絵葉書ではありません。手紙を送る相手を思いながら、その人に向けて絵を描き、文字を添える手紙です。ですから、審査の際、この絵手紙は誰に向けてかかれたものなのかを想像して審査をさせていただきます。

今年度は、保育園から初めて「絵手紙」の出品がありました。小学校からも中学校からも絵手紙の出品が増えてきています。ポスターも含めての出品数は、

保育園一〇点(うち一〇点は絵手紙)、小学校二四六点(うち一〇八点が絵手紙)、中学校三〇点(うち一一点が絵手紙)、一般五点、総計二九一点でした。

まず、これら出品作品を保育園・小学校一年・二年・三年・四年・五年(六年生は出品なし)、中学校、一般の各区分別に特選及び入選候補を数点ずつ選出しました。次に、これら候補作品の中から、特選・入選作品を審査員の合議で選出しましたが、どの作品も個性豊かで素晴らしいものが多く、選出にはかなり時間を要しました。

保育園児の描いた絵手紙は、とてもかわいらしい絵と、絵にぴったり合う言葉が添えられていました。離れて暮らす祖父母、あるいは身近な友達に宛てて書いたのかなと思いつつながら審査しました。

小学校下学年は、家族・友達をテーマにクレヨンを使って美しく、そして楽しげに描かれました。仲がよいことを表現するために手をつないだシーンを

描いている作品が多く見られました。もう少し友達や家族が遊んでいる様子が描かれたポスターがあってもよかったですと思いました。

小学校の上学年は、以前によく見られた手や地球、国旗などのシンボリックなものを描いたポスターが少なくなり、いろいろな事象や事柄を題材にしている作品が多くなりました。様々な人権問題に子どもたちの意識が向いていることの表れではないかと思いました。

中学生と一般は、描写およびレタリングの技術に優れている作品が多かったです。色も美しかったです。見る者にこんなポスターを描いてみたいなど憧れをいだかせるポスターでした。多くの応募作品の中から選ばれたポスター・絵手紙が、みなさんの研修等で活用していただけることを期待しています。

(小野 淳)

ポスター・絵手紙部門選考委員

小野 淳

オカモト ジュリア ユリ

西川 昭義

彦根市はーとふるメッセージ2021 応募団体一覧

《幼保園児・小学生の部》	《中学生の部》	《一般の部》
ABC ENGLISH プリスクール	東中学校	彦根工業高等学校
城東小学校	西中学校	鳥居本養護学校(高等部)
城西小学校	中央中学校	鳥居本養護学校(職員)
金城小学校	南中学校	彦根総合高等学校
城北小学校	彦根中学校	ジョイソン・セイフティ・システムズ・サービス株式会社
佐和山小学校	鳥居本中学校	株式会社ナイキ 彦根工場
旭森小学校	稲枝中学校	株式会社日昇テクニカ
平田小学校	鳥居本養護学校(中学部)	東びわこ農業協同組合
城南小学校		株式会社ブリヂストン 彦根工場
城陽小学校		株式会社りそな銀行 彦根支店
若葉小学校		その他個人応募
鳥居本小学校		
高宮小学校		
河瀬小学校		
亀山小学校		
稲枝東小学校		
稲枝北小学校		
稲枝西小学校		

彦根市はーとふるメッセージ 2021 募集要項

1 目的

人権に関する作品(作文 標語およびポスター等)の募集を通じて、人権について考える機会を提供するとともに、応募作品を啓発に活用し、もって市民の人権意識の高揚とあらゆる人権問題の解決に資することを目的とします。

2 主催者

彦根市・彦根市教育委員会

3 応募資格

彦根市に在住、在学または在勤の人

4 部門および各部門作品の要件

- (1) 作文 …おおむね 800～1200 字程度、作文・エッセイ・詩など表現形式は自由、用紙は自由
※詩の場合は、上記文字数の制限なし
- (2) 標語 …文字数に制限はありませんが簡潔なもの、用紙は自由
- (3) ポスター・絵手紙 …≪ポスター≫380 mm×540 mm(4ツ切り画用紙の大きさ)、用紙の向き(縦・横)は自由
≪絵手紙≫100 mm×148 mm(官製はがきの大きさ)、人権啓発メッセージを盛り込むこと

各部門共通

下記のいずれかの内容を含むこと。なお、作品は未発表のものに限ります。

- ・ 様々な人権問題(同和問題、女性、子ども、高齢者、障害者、外国人の人権など)に関して人権尊重を訴える内容
- ・ 自身の生活の中で感じた人権を守ることの大切さ や 差別のない明るく住みよいまちづくりの大切さ などについて訴える内容

5 応募方法

- (1) 個人での応募 …作品に、「題名、氏名(ふりがな)、住所、電話番号およびFAX 番号」を明記すること
- (2) 保育園、幼稚園、小・中学校および高等学校を通じての応募
…①作品に、「題名、氏名(ふりがな)、学校(園)名、学年および組名」を明記すること
②各校(園)に在籍の場合、各校(園)を通じて応募すること
③作品のほか、「応募とりまとめ票(教育機関用)」を添付すること
- (3) 企業(事業所)、学区人権教育推進協議会、自治会その他各種団体を通じての応募
…①作品に、「題名、氏名(ふりがな)および団体名」を明記すること
②作品のほか、「応募とりまとめ票(企業・団体用)」を添付すること

応募先

窓口持参、郵送 または Eメール のいずれかの方法で 下記まで提出

(窓口持参・郵送) 〒522-8501 彦根市元町4番2号 彦根市企画振興部人権政策課

(Eメール) jinken@ma.city.hikone.shiga.jp ※Eメールでの提出は、作文および標語に限る。

6 応募点数

- (1) 個人での応募 …部門ごとに「1人1点」まで
- (2) 保育園、幼稚園、小・中学校および高等学校を通じての応募
…部門ごとに「各校(園)の学級総数」以内 ※学級総数が10未満の場合は10点以内
- (3) 企業(事業所)、学区人権教育推進協議会、自治会その他各種団体を通じての応募
…部門ごとに「1団体(事業所)10点」以内

7 募集期間

令和3年(2021年)7月1日(木) ～ 同年12月10日(金) ※郵送の場合、最終日の消印有効

8 入選作品の選考・発表

- ・ 入賞作品の選考を実施します(部門ごとに特選2点、入選4点程度)。
- ・ 入賞作品の発表は、令和4年1月下旬に本人に通知するほか、彦根市ホームページ等で発表します。
- ・ 入賞作品の著作権は主催者に帰属することとし、後日開催する作品展で掲出するなど啓発資料として広く活用します。よって、入賞作品の返却はできませんので、あらかじめご了承ください。
- ・ 入賞作品をもとに各種啓発資料を作成する場合には、作品の一部(誤字・脱字等)を修正する場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- ・ 入賞者の氏名等は、原則として公表します。公表を希望されない入賞者は、主催者までお問い合わせください。

人権啓発パネルの貸出について

「彦根市はーとふるメッセージ2021」入賞作品を展示しませんか？

2021年度も、市民の皆さんから人権の尊重をテーマにした作品「はーとふるメッセージ」が数多く寄せられました。これらの作品に込められた思いが一人でも多くの方に伝わるよう、作文・標語・ポスターの入賞作品を啓発パネルにしました。

心がほとなごんだり、はっと気づかされたり、心温まるメッセージいっぱいの啓発パネルです。パネルは1枚からでも借りられます。市民の皆さんが集われる場で、どんどん活用し、人権尊重の呼びかけやステキな雰囲気づくりをしてみませんか。詳しくは、彦根市人権政策課までお問い合わせください。

◆パネル1枚の仕様

< サイズ > 420mm×594mm (A2判)

< 重 さ > 約400g (アルミフレーム)

パネルイメージ



貸出方法

電話で予約後、パネルを取りに来られる際に、申請書を記入し提出してください。
なお、パネルの運搬は借用される方をお願いしています。

貸出期間

7日以内です。8日以上を希望される場合はご相談ください。

貸出料金

無料

<お問い合わせ先>

彦根市人権政策課 (〒522-8501 彦根市元町4番2号)

TEL: 30-6115 FAX: 24-8577

※入賞作品や貸出しチラシは、彦根市ホームページに掲載しています。

くらし・手続き → 人権 → 人権啓発 → はーとふるメッセージ
→ 「はーとふるメッセージ2021入賞作品集」

(右のQRコードを読み取ると、掲載ページにつながります。)



入賞された作品は啓発物品として作成し、
さまざまなイベントなどで配布しています。



ボールペン



クリアファイル



ウェットティッシュ

※いずれも過去の入賞作品です。